【参考】

Ⅰ　麻しん（はしか）とは

１　症　　状

感染すると通常１０～１２日後に３８℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血などが約２～４日間続き、解熱後、再び３９℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に１人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合も、先進国であっても 1,000 人に１人と言われています。

２　感染経路

麻しんは麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。

麻しんウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100％発症すると言われています。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する１日前から解熱後３日間まで（全経過を通じて発熱がみられなかった場合、発疹出現後５日間まで）といわれています。

３　潜伏期間

約１０日～１２日間（最長２１日間）

４　治　　療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

Ⅱ　風しんとは

１　症　　状

感染すると通常１４～２１日後に発熱（約半数程度の患者）、発疹、リンパ節腫脹が出現します。

症状が出現しない場合（不顕性感染）も１５～３０％程度存在すると言われています。

風しんに感受性のある妊娠２０週頃までの妊婦が感染すると、風しんウイルス感染が胎児におよび、先天異常を含む様々な症状を呈する先天性風しん症候群が出現することがあります。

２　感染経路

風しんウイルスによって引き起こされる感染症で、主な感染経路は飛沫感染です。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、発疹が出現する１週間前から１週間後までといわれています。

３　潜伏期間

１４日～２１日間

４　治　　療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

Ⅲ　麻しん及び風しんの予防対策について

麻しん又は風しんを疑う症状が現れた場合は、周囲への感染を防ぐため、必ず事前に医療機関に電話連絡でその旨を伝え、医療機関の指示に従って受診しましょう。

受診時は、公共交通機関等の利用を避けるとともに、妊婦との接触を避けましょう。

麻しん及び風しんには予防接種が有効です。予防接種を 2 回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、抗体検査や予防接種を検討しましょう。また、定期接種を確実に受けましょう。

※第１期：1 歳以上 2 歳未満
第２期：5 歳以上 7 歳未満の者であって、小学校就学前の１年間